

製品・サービス動向-国内

■フェニックスエンジニアリング：ワイヤレスマイクを搭載した電話会議システム「エリスステーション」シリーズに、SIP 対応モデルを追加 (@Press:10月27日)

株式会社フェニックスエンジニアリング (<http://www.phoenixeng.co.jp>) (埼玉県井入間郡)は、ワイヤレスマイク電話会議システム「エリスステーション」シリーズに、新たに IP 回線用 SIP 対応モデル「VCS754J」を、11月11日に発売する。



エリスステーション (フェニックスエンジニアリング)

主な製品仕様	VCS754J	VCS704J
接続回線	IP (SIP)	アナログ
回線コネクタ	Ethernet RJ-45	アナログ回線 2芯 RJ-11
通話音声 最大帯域	7 kHz (ワイドバンド)	3.4 kHz
PC用スピーカーマイク機能	○	—
マイク搭載数	6基 (ワイヤレス：4 + 本体：2)	
ワイヤレスマイク無線周波数帯	1.9 GHz DECT準拠	
本体寸法 (mm)	273 × 343 × 68	
ワイヤレスマイク寸法 (mm)	46 × 69 × 24	

エリスステーション仕様 (フェニックスエンジニアリング)

フェニックスエンジニアリングは、2015年3月に、コードレス電話機の世界最大手メーカーである VTech Telecommunications 社と総代理店契約を締結。同月から日本市場でエリスステーションシリーズのアナログ回線用モデル「VCS704J」を販売してきた。

VCS704J では、従来の音声会議用電話機で不満が多かった「声が小さい/届かない」という問題を解決できることから、特に置き換えの需要が多く、使用者からの好評判も広がり販売数を伸ばしてきた。

一方で、企業内の電話通信環境は、従来のアナログ回線だけでなく、IP ネットワークを利用した IP 回線 (VoIP) を導入するオフィスも増加しており、さまざまなクラウド PBX サービスも提供されている。そこで、これらの回線環境にも対応するため、エリスステーションシリーズに新たに IP 回線用モデル「VCS754J」をラインナップに加え、より幅広いニーズに対応できるようにした。SIP サーバや IP-PBX で構成された IP ネットワークに接続し、音声会議用 IP 電話機として利用できる。

アナログ用と同様に、VCS754J は、VTech 社独自の Orbitlink (オービットリンク) ワイヤレステクノロジーにより、4 個のワイヤレスマイクと 2 個の本体内部マイクで同時に会話ができるようになっている。

それぞれのマイクの音声をデジタルミキシング技術で統合し、最適なバランスに自動調整することにより、参加者全員の声を届けることができるという。

また、G.722 コーデック対応ワイドバンド音声により、人の声の音域をカバーする広い音声周波数帯域で、クリアな高音と深みのある低音を実現しているという。

さらに、標準で搭載している 4 個のワイヤレスマイクは、本体から取り外して自由に移動し配置できるようになっている。会議室のテーブルのレイアウトや参加人数に応じてマイクを動かしフレキシブルな使い方ができるため、これまでの音声会議用の電話機では難しかった「本体から離れた位置での発言」や「声が小さい人の発言」を收音することができる。また、会議

室の中での「移動しながらの会話」も可能となるため、ユーザから高い評価を得ているという。

※関連：2015年3月31日号 pp.4-5

■アバイア社：モバイル向けに最適化された UC を実現する「Avaya Equinox」を発表

(10月24日)

日本アバイア株式会社 (<http://www.avaya.com/jp/>) (東京都港区) は、ユニファイドコミュニケーション (UC) のメリットを最大限に実現する、ビジネスコミュニケーション用の新たなプラットフォーム「Avaya Equinox」を発表した。

Avaya Equinox は、従業員が業務で使い慣れているアプリケーションやブラウザ上でモバイル向けに最適化された効率的なコミュニケーションを実現するもの。「Avaya Breeze Client SDK」を使用して、各業界や従業員のニーズに応じたカスタマイズが可能となっている。

日本アバイアによると、UC の本来の目的は、コミュニケーション手段の統合とアクセスのシンプル化にあると考える。しかし、今日のベンダー各社は、コミュニケーション・アプリケーションのすべてのインフラストラクチャーとクラウドサービスを、単一のプラットフォームに完全に統合しきれていないと見ている。それに対して、Avaya Equinox は、この問題を解決し、シンプルなユーザ体験を実現しているという。

ユーザは1カ所のログイン先とひとつの簡単なソリューションを覚えるだけでよく、管理する情報システム部門はひとつのソリューションをサポートするだけで、統計情報やプロビジョニングの一元化、導入基盤の縮小が可能となり、結果、効率化と低コスト化を実現できるとしている。

Avaya Equinox は、単一のプラットフォームを通じ、あらゆる形態の会議をサポートするオールインワン型のソフトウェアソリューション。音声会議、広範囲な

Web コラボレーション、マルチベンダーHD 動画、さらには、10万人のユーザを対象とするイベントストリーミングまで対応する。

ユーザは、会議予定、最新メッセージ、履歴の全てを単一画面で素早く確認し、ワンタッチで即座にアクションを取ることが可能だ。また、HTML 5をサポートしたブラウザ (WebRTC) に対応しており、ファイルのダウンロードやプラグインは不要となっている。ブラウザと完全連携したことで簡単に操作することができるため、強力なコラボレーションを発揮している。

その他、Avaya Equinox は、ビジネスプロセスやコンテキスト、あらゆるビジネスアプリケーションに組み込むことができるのも特徴である。これにより、業界別のニーズに対応し、市場での差別化を実現する独自のソリューションを開発・統合できるメリットがある。また、単一ソリューション全体を網羅する「Avaya Breeze Client SDK」と、ワークフロー自動化機能、「Avaya Snapp Store」エコシステムを活用することで、スマートデジタルソリューションはより広範囲かつ迅速に開発できるようになるという。

日本アバイアによると、年内に全世界での一般提供開始を予定している。これまで提供してきた同時利用ユーザ数に基づく会議用の価格設定オプションに加えて、ユーザ単位によるサブスクリプション契約のスイートライセンス方式や永久ライセンスの価格モデルでも販売される。

■市進教育グループ：PC やタブレットを使った双方向型遠隔授業「おうちでマスター」を開始

(10月17日)

首都圏で約500カ所の塾を運営する市進教育グループ (<http://www.ichishin.co.jp/>) (千葉県市川市) は、オンライン上で受講できる遠隔授業「おうちでマス

ター」を開始した。

おうちでマスターは、自宅から PC やタブレット端末を使って塾の対面授業さながらの指導を受けることができるもの。対象は中学 1 年生。開講科目は、数学と英語。1 科目 3,000 円(60 分 x 月 4 回)、2 科目 5,000 円 (60 分 x 月 8 回)。

指導経験豊富なプロ塾講師が教える対話型の授業は、わかりやすいのはもちろん、学習アドバイスや進路相談など、トータルな学習指導が可能となるという。長年にわたる塾の指導ノウハウと ICT をかけあわせることで、学習効果と満足度が高い遠隔授業を実現している。

少子化が加速し、離島や遠隔地などにおいて講師不足が深刻化するなか、市進教育グループは教育の地域間格差をなくし、どこにいても高い質の教育を受けることができる環境創造を目指している。

そういった中、デジタル学習教材や e ラーニングなどオンデマンド型の遠隔授業は「その場で質問ができない」「一人では続かない。」など悩みの声も多く、これらの課題を解決するため同時双方向型の遠隔授業を提供することにした。

おうちでマスターは、現在、中 1 年生が対象だが、今後は対象学年を順次広げていくという。また、家庭学習の習慣化を目的とした遠隔支援サービスの開発・展開を目指す。

ビジネス動向-国内

■東芝と Vidyo 社：音声・映像コミュニケーション分野の協業に関する覚書を締結、東芝の音声・映像活用 AI 技術と Vidyo のビデオコラボレーションを組み合わせることで新たな価値を創造

(10 月 28 日)

株式会社東芝 (<http://www.toshiba.co.jp>) (東京都

港区) は、Vidyo 社 (<http://www.vidyo.com/>) (米国・ニュージャージー州) と音声と映像コミュニケーション分野における協業に向けた検討を開始することに合意し、覚書を締結したと発表。

今回両社は、Vidyo 社の持つ幅広いネットワーク環境やデバイスで安全かつ高品質にインタラクティブなビデオ会議ができる技術と、東芝の持つ音声認識、音声合成、対話、翻訳、画像認識、意図理解など AI を活用したメディアインテリジェンス技術 (RECAIUS) との組み合わせを検討する方向だ。

具体的には、(1) セキュアで高画質に配信される音声と映像から顧客との会話をテキスト化し記録分析、(2) 外国人との円滑なコミュニケーションを実現する多言語同時翻訳、(3) 画像認識技術による人物認証、などのソリューション提供について両社で検討していく。加えて、両社の技術を活用した次世代の顧客エンゲージメントソリューションについて、技術検証やマーケティング活動を行い、より高度かつ効果的なソリューションの提供を目指す。

RECAIUS (リカイクス) は、音声や映像から人の意図を理解し活動をサポートするクラウド AI サービス。東芝が長年にわたり研究開発してきた、音声認識、音声合成、翻訳、対話、意図理解、画像認識 (顔・人物画像認識) などメディア知識処理技術を融合し体系化したもの。新しいライフスタイルやビジネスの創出に貢献するとしている。

今後、両社は、日本国内において顧客エンゲージメントの需要が大きい金融市場を皮切りに、さまざまな産業市場およびグローバル市場に向けた製品やソリューションの開発・事業化の可能性について検討を進めていく。

なお、11 月 1 日と 2 日に開催される「TOSHIBA OPEN INNOVATION FAIR 2016」(グランドニッコー東京 台場)にて、RECAIUS と Vidyo を組み合わせた顧客エンゲージメントソリューションのデモを含めて紹介する。

導入利用動向-国内

■メドレー：ゆげ耳鼻咽喉科、外来に遠隔診療を導入、Web を通じて予約からビデオチャットでの診察、決済、処方箋の配送までを提供

(10月26日)

ゆげ耳鼻咽喉科 (<http://yuge-ent-clinic.com/>) (神奈川県小田原市) は、遠隔診療を導入した外来の受付を10月26日より開始した。オンライン通院システムとして、株式会社メドレー (<http://www.medley.jp/>) (東京都港区) が運営するオンライン通院システム「CLINICS」を導入した。

CLINICS は、Web を通じて予約からビデオチャットでの診察、決済、薬・処方箋の配送までを提供できる遠隔診察ソリューション。患者はインターネットを介して、自宅や会社にいながら診察を受けることができる。

遠隔地にいる医師と患者を情報通信機器でつないで行う診療を遠隔医療というが、従来厚生労働省の見解では、離島やへき地の患者など対面診療が物理的に難しいケースを除いて原則禁止とするものだった。しかし、2015年8月に発せられた厚生労働省の通達では「患者側の要請に基づき、患者側の利点を勘案した上で直接の対面診療と組み合わせて行う限り差し支えない」という見解が確認された。

ゆげ耳鼻咽喉科によると、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法、睡眠時無呼吸症候群に対するCPAP療法など、治療が長期にわたる場合には継続的な通院が必要という。しかし、仕事や家事で多忙であることから通院が難しく、症状をなかなか改善させることが出来ずに苦しんでいる方もいるようだ。そのため、こういった患者の待ち時間や通院時間の負担を減らすことができるよう、オンラインを取り入れた診療の導入を決めた。

オンライン通院で提供予定の診察としては、医療相談、舌下免疫再診、睡眠時無呼吸再診、一般再診などを予定している。

オンライン通院の流れとしては、保険診療の初診では、まずはオンラインで予約ののち、対面で診察、診断、治療の導入を行う。その上で、オンラインでの問診に十分に回答できる能力があり、病状がある程度安定しているといった一定の条件を満たした患者に対してオンライン通院を選択肢として提供する形だ。そして、決済は、予約時に登録したクレジットカードに自動的に決済を行い、処方箋の配送については、予約時に登録した住所に配送する流れ。患者は届いた処方箋を調剤薬局で薬を購入し医師の指示の下、服用する。

Report

※CNAレポート・ジャパン橋本啓介による検証・取材レポート

■バイキューブ：会議室設置型テレビ会議システム「V-CUBE Box」の設置・操作の“簡単さ”を検証する

<https://blog.vcube.com/evaluate-v-cube-box-by-cna-report-japan.html>

■バイキューブ：V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証（前編）

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-1>

■バイキューブ：V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証（後編）

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-2>

■パイオニア VC：“ものづくり”の現場を支える、遠隔
コラボレーションシステム「xSync Prime
Collaboration」取材レポート

<https://blog.vcube.com/xsync-prime-collaboration.html>

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

(USB スピーカーフォン FLX UC 500)

http://jp.yamaha.com/products/communication/revolabs/flx_uc_500/

■株式会社メディアプラス

(ビデオプラットフォーム Pexip Infinity、
VMR 運用ツール VMR オペレータ)

<http://www.mediaplus.co.jp/products/Pexip/>

■株式会社ブイキューブ

(テレビ会議システム V-CUBE Box)

<https://jp.vcube.com/service/box/>

セミナー・展示会情報

<国内>

■失敗しない「Web 会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー ～ビジュアルコミュニケーションツールの選び方をデモを交えてご紹介～

日時：10月・11月・12月

会場：東京都・大阪府・愛知県・三重県・静岡県

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：

<https://jp.vcube.com/event/seminar/201606151900.html>

※その他セミナー情報：<https://jp.vcube.com/event/seminar/>

■VTV ジャパンクラウドセミナー【注目度 No.1! 世界で浸透
するビデオ会議クラウドサービス!!】

日時：11月16日(水)・17日(木)・18日(金)

各日 15:00～

会場：VTV ジャパン 東京オフィス・大阪オフィス同時開催

主催：VTV ジャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/1611vtv/>

※「Lifesize Cloud」と「BlueJeans」の紹介。

■ポリコム オンデマンド Webinar ポリコムのマイクロ
ソフト連携紹介

第一回 Webinar(所要時間：31分)

「これまで以上のビジネスをポリコムでシンプルに実現」

第二回 Webinar(所要時間：41分)

「ポリコムとマイクロソフト Sfb ソリューションのネイ
ティブ連携 - 利点と実現方法」

第三回 Webinar(所要時間：34分)

「Office 365 環境におけるポリコムとマイクロソフト Sfb
ソリューションのネイティブ連携」

会場：オンラインで視聴

詳細・申込：

<http://www.polycom.co.jp/forms/microsoft/skype-for-business-webinar.html>

■Polycom Webinar：働く人すべてを対象としたテレワーク
の実現とそのメリット

日時：11月29日(火) 10:00～ (所要時間: 30分程度を予定)

会場：オンライン

主催：ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込：<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、定期レポートでレポートしている情報以外に、業界の動きに関連した国内外のさまざまな情報を日々配信・共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2016年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2016年10月31日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp